

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	かもめ
所在地	東臼杵郡門川町東栗町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和元年12月26日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成32年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆりかもめにおいては母体病院と連携し、利用者の方の定期受診はもちろんの事、日頃から情報を共有し緊急時や急変時すぐに対応できる体制を整えている事から、ご家族の皆様にも「安心です。」と言うお言葉をいただいています。その他、地域にある高校の実習生も年に3回程受け入れ、年度初めの「介護実習連絡会」へも参加しています。地域資源の活用においては、近くの理容所に入っただき散髪をしていただいたり、美容室の希望があればお連れし、野菜の配達や近所のスーパー・ディスカウントショップ等も高い頻度で利用し、地域密着型の施設としての役割を十分に果たしていると考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院と連携した夜間の災害対策や医療支援体制の構築に取り組んでいる。自治会との交流や、高校の実習生を受け入れたり、利用者の馴染みの店に買い物に行くなど地域密着型サービスの実践に努めている。職員が管理者に意見や提案を伝えやすい環境づくりに努め、理念である「同じ目線・同じ気持ちを忘れずに」を共有して支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員・管理者全員で理念について考え共有し、実践に繋げている。		玄関に理念と介護目標を掲げ、カンファレンス時に理念を確認、共有し実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流会に地域の方々を招待したり、利用者様と買い物・散歩・散髪等で交流している。		交流会の案内を自治会に配布し、地域の方と昼食を共にしたり、高校の実習生を受け入れるなど地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散髪等を等して、地域の方に理解をして頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、地域の方・施設の方と意見交換し向上に活かしている。		運営推進会議で出た意見をサービスに反映させるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から役場と連絡を取り合い事業所に協力して頂いている。		運営推進会議に町役場担当者の出席があり、ホームの実情や取組を報告している。また、いつでも相談できるよう協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回実施し議事録を作成し、職員間で共有している。		施錠の弊害は理解しているが、家族からの要望や立地条件などを考慮し、玄関は施錠している。	日中職員が2人になることも多く、見守りや気配りが手薄になることもある。施錠しなくても済むような就労環境の改善を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	病院での虐待防止の研修や外部研修に参加し、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	病院の研修に参加し知っているが、現在ゆりかもめでは利用している方がいない為、活用していない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院時には家族に詳しく説明し、理解して頂いている。変更がある場合は文書にて連絡、又は説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見・要望はその都度聞き、運営推進会議でも、家族や地域の方の意見を聞き、運営に反映させる様に努めている。	利用者や家族からの意見や要望を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスで職員は意見を発信している。	職員が意見や提案を出しやすい環境づくりに努め、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスの倍率が看護師より低く、同じにして欲しいと病院側に伝えてあるが、変わらない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の院内研修にはなるべく参加し、院外研修もその都度参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修には参加できる時には参加し、横のつながりを持ち、質の向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より可能な限り面談し、本人の要望や現状を聞き取り、職員全体でその人なりを理解し、柔軟な対応を行い関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話聞き、要望等には耳を傾け関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、またはその前の段階で、家族の方や本人に話を聞き情報を収集し、職員全員に情報を伝え、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除等をお願いし一緒に行い関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や担当者会議にいられた際に、本人家族の話聞き、共に支えていく関係を築いていく努力をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用していた、利用・美容室の継続やかかりつけの病院なども家族の付き添いの元行かれたり、面会も自由に入りして頂いている。	誕生会を兼ねて馴染みの店で外食したり、家族や親戚の面会を支援するなど関係継続に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベルの違いが、孤立の様子がある場合、席替えや声掛けレクなどの参加を促している。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その方の状況により、必要に応じて相談や支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の希望を聞き、職員間でもその都度話し合い、出来る限り意向に沿うように努めている。		利用者の話をよく聞いて思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、状態観察をして意向を把握するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセス・申し送り・カンファ・担会を行い、経過・観察・支援方法等を確認し努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	報告・連絡・相談を重視し職員の申し送りノートに書き写し、見落としのないよう心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と共に、担会やカンファを行い、その人に合った計画作成に努めている。		毎月のモニタリングは担当者が行い、支援状況や検討課題を記入して介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行い、状況変化と共に職員間で話し合い共有し見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況変化により支援のやり方などを変え、多機能に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物希望がある場合は、本人と一緒に出かけたり、地区の祭りがあれば皆で外へ出て見学したり楽しんで頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる病院が横にある為、定期的な受診と本人や家族の訴えが有ればすぐに医療が受けられる状態である。	母体の病院がかかりつけ医となっており、受診同行支援を行っている。他科受診は原則家族対応となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時看護師がいる為、何かあればすぐに適切な助言や治療が受けられる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院である為、情報交換がスムーズにできる状態である。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の状況を家族へ報告し、病院と治療方針を共有するよう取り組んでいる。	重要事項説明書で重度化や終末期についての説明を行っている。母体の病院と連携し、ケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な院内研修の参加や、急変時には母体の病院に連絡し指示受け対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に通報し昼と夜の訓練を年2回行っている。また病院との連携を図り応援体制を整えている。	消防と連携した訓練を行っている。母体病院と夜間の支援体制の構築に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を損ねないような声掛けを行っている。		過去の生活歴や家族歴、介護計画書などを参考に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、本人に決定してもらう様に声掛けしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのしたい作業や趣味を優先して頂くように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマ更衣及び普段着等、本人様の好みの服や季節ごとに着用できるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの方が、出来る範囲で配膳や下膳等を行って頂いている。		自助サポートの食器を使用して食事の自立を支援したり、家庭料理のような献立を職員が考えるなど食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3缶の食事と2回のおやつ時の水分摂取を声掛けや促しと、腎機能低下の方には生野菜・フルーツから温野菜や缶詰へ変更等の個別配慮をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や場合に応じて、職員が見守りや声掛け、介助にて実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に対し、その時の状況に応じて声掛けや支援を行っている。		排せつチェック表や表情や動きを観察しトイレ誘導を行うなど、排せつの自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、看護師とも相談し、水分・牛乳・ヨーグルト・下剤の服用等で対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望日や時間帯を合わせたの入浴は出来ていないが、体調や気分に合わせて入浴と清潔保持に努めている。		入浴は日曜日以外毎日可能であるが、本人の希望を聞き、週に2～3回入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動能力やペースに合わせて、昼寝や就寝の支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専従の看護師が管理しており、処方変更時には申し送り等で報告があり、様子観察を行う。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野や希望してしたい事等が出来るように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回車での外出や、利用者の個人の買い物支援や夕方のゴミ出しのお手伝い等をして頂いている。		気候が良い時期は外気浴ををするなど日常的な外出支援に取り組んでいる。また、誕生会を兼ねて外食をしたり、弁当を持ってドライブに行くなどの外出支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	かもめ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はご本人や家族の希望で預かって方が多いが、職員と一緒に買い物に行ける方はお金を使用出来る様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が、電話希望の時には対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備はその日の温度や湿度を汲み取って管理している。ユニット内の壁には、利用者の方の作品や新聞便りを掲示している。	季節を感じさせる装飾や利用者の作品を掲示し、利用者がゆっくり過ごせるよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の今では、利用者の方が思い思いの過ごし方をされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が安心して過ごされることが出来る様に、好みの物や使い慣れた物を持参して頂くように、御家族にも協力して頂いている。	使い慣れた家具や写真など馴染みの生活用品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室入口は本人に自室とわかるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の表示で、表札・トイレ・浴室等を表記してある。誘導が必要な利用者様には声をかけて誘導・介助をしている。			